



「東武グループ中期経営計画」の推進

2018年5月11日

東武鉄道 株式会社

東武グループ中期経営計画の推進

成長戦略（４・３・２・１ Plan）

◆重点エリアへの集中投資による収益の最大化

浅草・東京スカイツリー、日光・鬼怒川、池袋、銀座
・八重洲・湾岸の各エリアへの重点投資により収益の拡大を図る

◆沿線における事業の深耕による沿線価値の向上

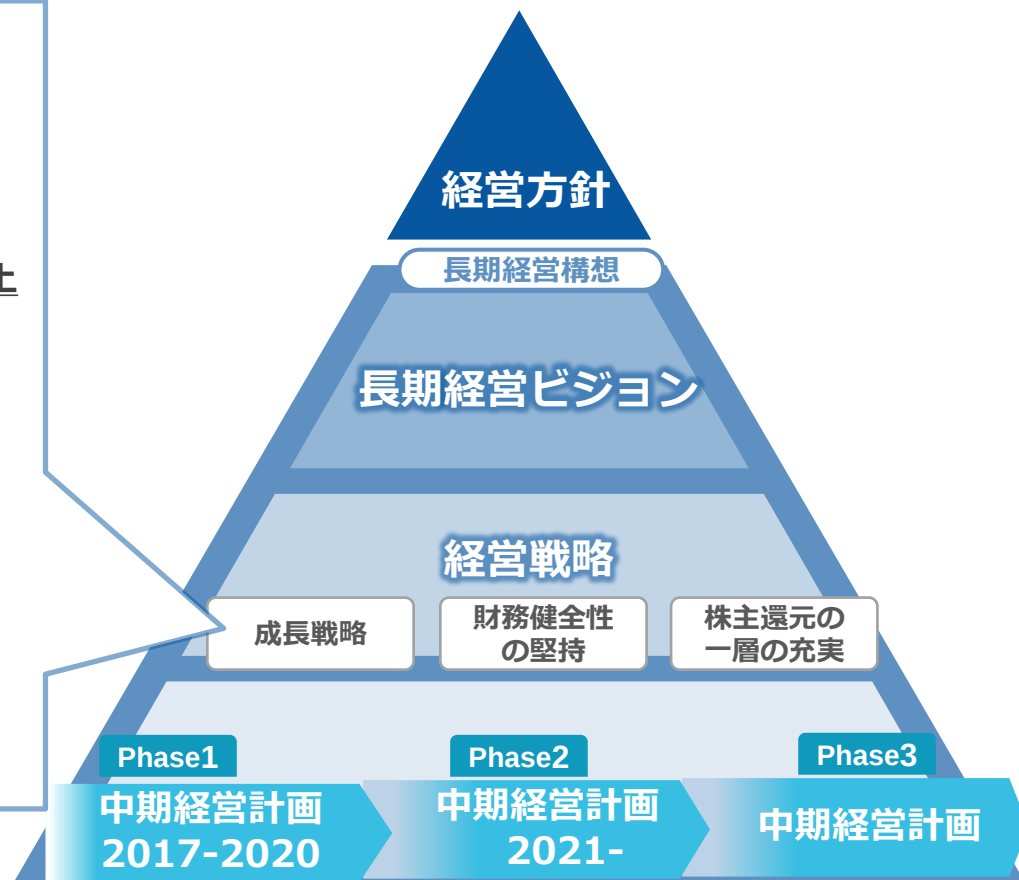
鉄道ネットワークの強化と生活利便性の向上により沿線価値を高め、沿線人口の増加を図る

◆沿線外への新たな事業進出

市場ニーズと環境の変化を的確にとらえ、沿線外においても新たな成長と認知度向上を求め、事業展開を図る

◆インバウンドへの取り組み

訪日外国人旅行者の誘客を推進し観光立国の一翼を担うとともに、新たな分野でのインバウンド事業への取り組みを図る



Phase1

中期経営計画 2017-2020 の位置づけ

- ・次なるステージに向けた成長投資の推進
- ・東京オリンピック・パラリンピック開催とその後を見据えた事業の種蒔きと育成
- ・急伸するインバウンド需要の取り込みによる収益拡大

東武グループ中期経営計画の推進



成長戦略の推進状況

1. 重点エリアへの集中投資 P 3 ~ 9
 - (1) 浅草・東京スカイツリーエリア
2020年を見据え、収益の最大化に向けたさらなる飛躍へ
 - (2) 日光・鬼怒川エリア
世界唯一の「歴史・文化・伝統と自然が共生する国際エコリゾート」へ
 - (3) 池袋エリア
街の一体性と賑わいを促進し、魅力的で競争力のある都市へ
 - (4) 銀座・八重洲・湾岸エリア
東京オリンピック・パラリンピックを契機にさらなる事業拡大へ
2. 沿線における事業の深耕 P 10 ~ 15
高品位な暮らしの提供
輸送サービスのレベルアップ
駅を中心とした拠点の開発
3. 沿線外への進出 P 16
4. インバウンドへの取り組み強化 P 17 ~ 18
5. ホテル事業の展開 P 19
6. ICT・AI等新しい技術の活用に向けた取り組み P 20

東武グループ中期経営計画の推進



重点エリアへの集中投資（浅草・東京スカイツリーエリア）

東京スカイツリータウン® 5周年イベントの効果

※2017年 5/8～6/4（28日間比較）

天望デッキ 来場者推移

対前年 約4.2%増

天望回廊 来場者推移

対前年 約23.2%増

東京スカイツリー-営業収益推移

対前年 約9.5%増

東京ソラマチ 売上推移

対前年 約6.2%増

2017年度実績

天望デッキ 来場者数

444万人（対前年約1%減）

天望回廊 来場者推移

対前年 約3.6%増

東京スカイツリー インバウンド比率

2016年度 17.7% ➡ 2017年度（対前年）22.4% +4.7P

東京ソラマチ 売上推移

対前年増
（49店舗入替の効果等）

2017年度実施イベント



アニメ「進撃の巨人」
コラボイベント
©諷山創・講談社／「進撃の巨人」製作委員会
©TOKYO-SKYTREE



「リサとガスパール」
コラボイベント
©2017 Anne Gutman & Georg
Hallensleben / Hachette Livre
©TOKYO-SKYTREE



東京スカイツリー-タウン
イルミネーション

東京スカイツリータウン® 今後の方向性

■タウンとして目指すべき姿

戦略的な
顧客来場促進

周辺を巻き込んだ
エリア戦略

機会を捉えた
各種施策の具体化

- ・新たな顧客の来場促進
- ・中長期的なまちづくり
- ・2020年に向けた取り組み
- ・リピーター顧客の獲得
- ・エリアとしての魅力向上
- ・時代や環境の変化に対応

■東京スカイツリー® 来場者目標達成に向けて

インバウンドセールスの強化

2020年を見据え、アジアに加え
欧米豪での認知拡大
海外Webエージェントの活用強化

国内／団体セールスの強化

修学旅行の維持・拡大
企業・組織団体への直接営業活動強化

■東京ソラマチ® 「日常」×「観光」に応える地域活性化型SCへ

リピーター顧客の取込み

既存店の営業強化＋継続的な店舗入替

インバウンド含む観光客への
情報発信・機能強化

WEBデジタル媒体への移行
一括免税カウンターの拡大

2020年を見据え、収益の最大化に向けたさらなる飛躍へ

東武グループ中期経営計画の推進



重点エリアへの集中投資（浅草・東京スカイツリーエリア）

ASAOKUSA

隅田川

浅草駅ビル「EKIMISE」の
テナント入替による集客力強化



浅草駅



隅田川橋梁
ライトアップ



PARK



STREET

TOKYO SKYTREE TOWN



とうきょうスカイツリー駅付近高架化

- ・高架化にあわせターミナル機能の拡充
- ・事業エリアの拡大

RIVER



北十間川

約1 km

浅草・スカイツリーをつなぐ「賑わい空間」

区・都と連携した高架下＋水辺＋公園の一体再開発 始動（2020年開業を目指す）

（仮称）浅草東武ホテル
国内外観光客とビジネス需要を
捉えた宿泊主体型ホテル

「浅草」と「東京スカイツリータウン®」を回遊できる観光地として一体化
3,000万人×3,000万人＝東京最強の観光スポットを目指す

東武グループ中期経営計画の推進



鬼怒川温泉
エリア

下今市
エリア

重点エリアへの集中投資（日光・鬼怒川エリア）

2017年度 下今市～鬼怒川温泉エリアにおける新規事業の推進

交通アクセス利便性向上



新型特急リバティ
会津直通開始

横浜駅・羽田空港～
日光・鬼怒川
高速バス路線新設
（東武バス日光）



鬼怒川温泉駅～日光地区
バス路線新設（東武バス日光）



日光エリア バス売上
（4社合計）
前年比約6%増

東京駅～日光・鬼怒川 高速バス路線新設
（東北急行バス）

東武ワールドスクウェア駅開業

東武ワールドスクウェア
売上
前年比約7%増

観光コンテンツの充実



SL復活運転開始



下今市駅構内転車台広場開設 下今市駅舎リニューアル



SL乗車人員 約7万人
（8月～3月実績）

2017年度定期外乗車人員 前年比約14%増
（下今市～東武日光、下今市～新藤原の合計）

2017年日光市への来訪者 史上最高の1,200万人超

SL2機目導入へ

昭和レトロ感の駅へ

鬼怒川線をファミリー層が楽しめる「昭和レトロ感」なテーマパークへ
会津・福島への観光周遊ルートへつなげていく

東武グループ中期経営計画の推進



重点エリアへの集中投資（日光・鬼怒川エリア）

日光エリア

中禅寺湖・湯元
エリア



二社一寺
エリア

2020年に向け、二社一寺～
中禅寺湖・湯元エリアのさらなる活性化を推進

交通アクセス

快適・エコな
移動手段の充実

観光コンテンツ

訪れる、滞在する
「楽しみ」を増やす

ソフト面

情報発信と受入れ環境の
強化を図る

宿泊施設

最上級の宿泊サービスを充実する

～2017

東武日光
直通特急
の増便



日光地区渋滞対策
パーク&バスライドへ
の協力

栃木県とEVバスの導
入等について検討



中禅寺湖 新型遊覧船「男体」導入

アクティビティ の拡充

中禅寺湖における
グランピング
アクティビティ



西参道建物新設
参道らしい飲食店

食の充実



日光コンシェルジュ

日光エリア多言語MAP

手ぶら観光サービス
(東武日光駅)

Wi-Fiエリア拡大
(バス車内・明智平ロープ
ウェイ等)



日光・鬼怒川エリア
Instagram
公式アカウント開設



日光金谷ホテル
稼働率推移
前年比約4%増

日光金谷ホテル含
む9ホテルにて
「日本クラシック
ホテルの会」設立

高級温泉旅館誘致
「日光 ふぶ」(仮称)
2019年秋予定



2020年夏開業
ザ・リッツ・カールトン日光

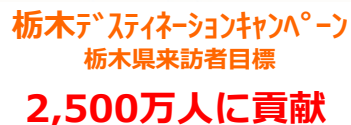
滞在型リゾートへ

通年型リゾートへ

高級志向にも応えるリゾートへ

世界唯一の「歴史・文化・伝統と自然が共生する国際エコリゾート」へ

2020年に向け、全エリアにて様々な取り組みを推進



2017年度実績

約82億円	→	約106億円
(2016年度)		(2017年度)

平年度ベース
(2020年以降)
160億円

東武グループ中期経営計画の推進



重点エリアへの集中投資（池袋エリア）

■ 池袋エリアの国際競争力強化と東武東上線の沿線価値創出を目指し、再開発事業を推進

池袋駅西口地区再開発事業概要

池袋駅西口地区市街地再開発準備組合による市街地再開発事業と、隣接する当社事業が連携したまちづくりにより池袋駅西口地区（約6ha）の価値を最大化

池袋駅西口地区市街地再開発準備組合

事業区域内の地権者数92名

準備組合加入率：79%（2018年4月26日現在）

池袋エリアの回遊性を高めるデッキ構想

- 再開発にあわせ東武東上線線路上空にデッキを整備することで駅東西の開発をつなぎ、回遊性とまちの一体性を向上（Hareza池袋等と連携）
- 駅周辺のバリアフリー動線強化や災害時の一時待機場所等として貢献
- 新たな人の流れを作ることによる周辺街区への賑わいの波及や周辺開発の誘引



線路上空デッキ整備（イメージ）



線路上空デッキ整備構想 概要図（イメージ）

街の一体性と賑わいを促進し、魅力的で競争力のある都市へ

東武グループ中期経営計画の推進



重点エリアへの集中投資（銀座・八重洲・湾岸エリア）

ACホテル・バイ・マリオット東京銀座 2018年3月着工

スタイリッシュなデザインが特長のアジア初進出マリオットブランド

総客室数：296室

付帯施設：レストラン、バー、フィットネスジム、会議室等

スケジュール：2018年3月着工、2020年夏開業



ACホテル・バイ・マリオット東京銀座
建物外観イメージパース

日本橋三丁目（八重洲）計画

東京駅から至近という立地を最大限活かした
ホテル事業を軸に検討中

所在地：東京都中央区日本橋三丁目
敷地面積：723.67㎡（約218.91坪）



所在地

日本を代表する銀座・八重洲・湾岸エリアにおいて
東京リネ°ック・パ°リネ°ックを契機にさらなる事業拡大を図る

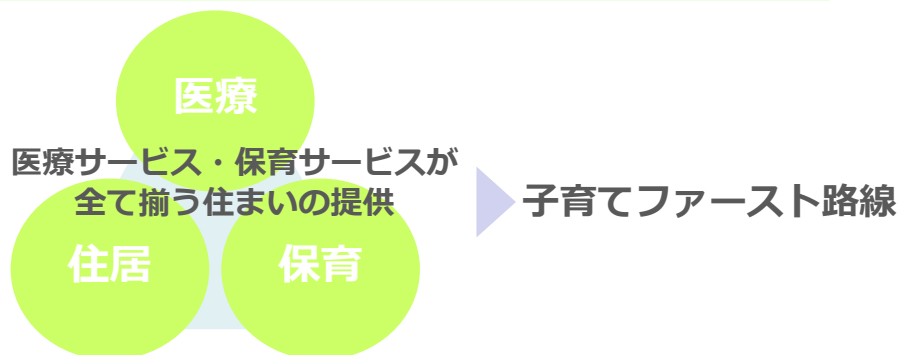
東武グループ中期経営計画の推進



沿線における事業の深耕（高品位な暮らしの提供）

「子育て」や「働き方改革」を強力に支援

子育て世代に向けた住まいの提供



■ 子育て賃貸マンション計画

- ・ 東京都子育て支援住宅認定制度申請予定
- ・ クリニック・調剤薬局併設、ベビーシッターサービス提供

■ 子育てサポート付き社宅のビジネスモデル検討

- ・ 社宅内に事業所内保育所の設置を検討
- ・ 子育てサポート（保育サービス、病児保育等）
- ・ 地域・多世代コミュニティの創出を目指す

子育て支援サービスの提供

■ 駅チカ保育施設の整備

- ・ 曳舟保育施設の開業（2018年4月）
計12施設に



■ 沿線居住者への子育て応援

（東京スカイツリー®東武カードPASMOの会員が対象）

- ・ 小学生へ「一往復乗車証」をプレゼント（春夏冬休みに提供）
- ・ 将来は特急利用へのサービス拡大を検討



就業支援施策

■ サテライトオフィスの展開

- ・ 獨協大学前・ふじみ野・横浜3か所にて展開
- ・ 登録企業数67社
登録利用者数2,582人
（2018年4月時点）



3世代が日本一暮らしやすい、住みたい・住み続けたい沿線へ

東武グループ中期経営計画の推進



沿線における事業の深耕（高品位な暮らしの提供）

多様なライフスタイルにあった住宅開発事業

東武沿線に住むきっかけづくり 賃貸事業の拡大

新ブランド導入

■ 賃貸住宅事業の新ブランド導入

- ・暮らしのブランド「ソライエ」の認知拡大を図る
- ・住まう人の自分らしく自由な暮らしを応援

Solaie I'll

ソライエ アイル

賃貸マンションの展開

■ 下赤塚駅ビル リノベーション

- ・コミュニティスペースを設け、住民同士の交流の場に



収益物件の取得

- 墨田区吾妻橋 新築賃貸マンション
- 墨田区向島 新築賃貸マンション



分譲マンション



- ソライエ東川口
プレミアムレジデンス
(2017年度竣工)



- ソライエ葛飾小菅
(2018年度竣工)

戸建分譲

- ソライエ清水公園
アーバンパークタウン



時代のニーズや多世代ライフステージにあわせた提案型住宅開発を推進

東武グループ中期経営計画の推進



沿線における事業の深耕（輸送サービスのレベルアップ）

ダイヤ改正による利便性・速達性の向上

■お客様のニーズに応えた新しい特急サービス

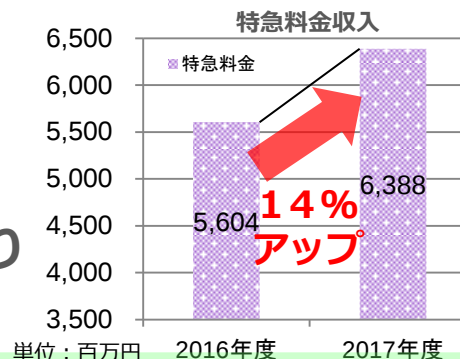
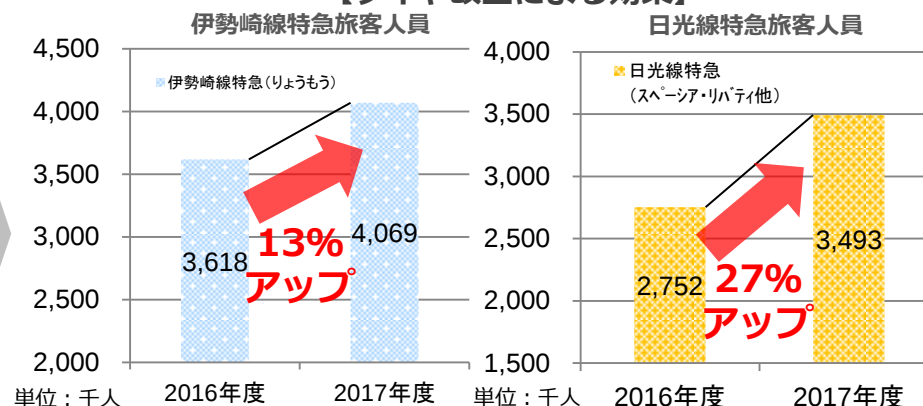
- ①ダイレクトアクセス
(乗換不要な直通列車の設定)
- ②特急列車の多頻度化
(併分割可能な特急「リバティ」の導入)
- ③特急列車の利用機会を拡充

- ・東武日光直通特急列車の増発
- ・東武アーバンパークラインへの直通ライナー新設
- ・会津方面への直通特急列車の新設
- ・特急りょうもう号の全列車「久喜」停車
- ・効率的な車両運用と特急料金の収入増

ニーズを先取りしたサービス開拓により
さらなる収益の拡大を図る

特急・定期外 過去最高に
(特急利用人員約760万人 定期外輸送人員約3億2千万人)

【ダイヤ改正による効果】



ゆったり会津 東武フリーパス
販売実績
会津方面への来訪者
(相互波及効果)
前年比約17%増

東武グループ中期経営計画の推進



沿線における事業の深耕（輸送サービスのレベルアップ）

速達性・利便性・生産性の向上にむけた投資

■ 東武アーバンパークライン速達性の向上

六実～逆井間複線化、高柳駅2面4線化による
船橋～柏～運河間急行運転の実施
(2020年春実施予定)

■ 運行情報アプリの導入

・スマートフォンアプリ「東武線アプリ」
提供を開始（無料）

【案内内容】

列車運行情報・登録した駅の発車時刻
列車ごとの停車駅・到着時刻
列車走行位置（東上線・越生線）
→区間拡大予定

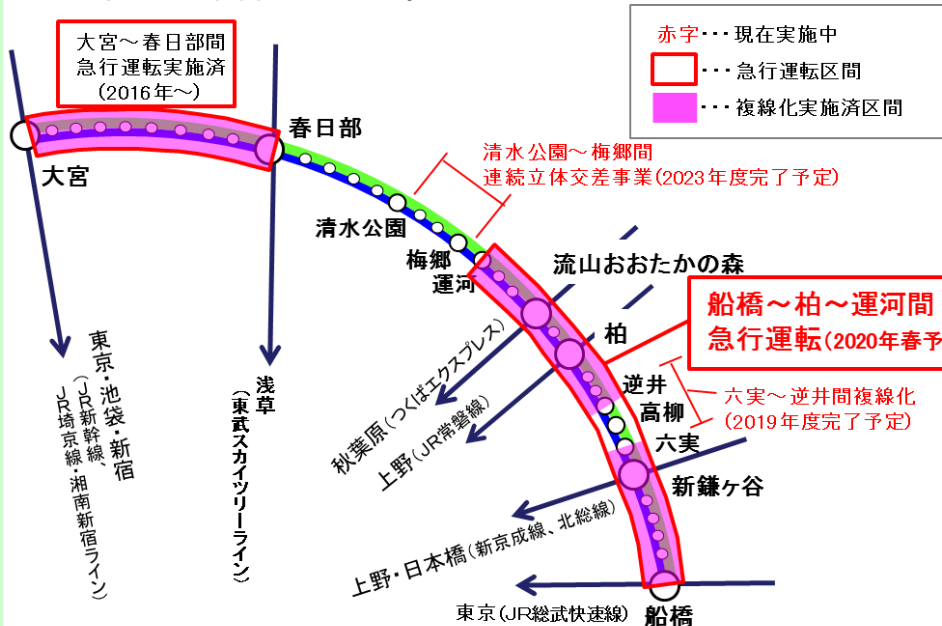


■ 特急券発売システムの利便性向上

- ・チケットレスサービスの野岩線・会津線連絡特急券発売対応
- ・インターネットによる発売体制強化（英語対応含）

■ 省力化による生産性の向上の検討

- ・将来の生産年齢人口の減少および人員不足に対応する省力化を推進



TOBU URBAN PARK LINE

東武グループ中期経営計画の推進



沿線における事業の深耕（輸送サービスのレベルアップ）

安全性向上施策の推進

■ ホームドアの整備状況

【整備済】

船橋(2014年)・柏(2015年)・和光市(2016年)
川越(2018年3月供用開始)
池袋(2018年4月1番線ホーム供用開始、
その他ホームは2020年度までに供用開始予定)

【進捗状況】

朝霞、志木(2018年度工事着工予定)

【今後の計画】

- ・ 2020年度までに拠点駅および東京オリンピック・パラリンピック会場最寄駅に設置
- ・ 2021年度以降、特にご利用者数が多い区間・駅へ順次設置



池袋駅ホームドア

**特にご利用者数が多い区間
および駅（乗降5万人以上）
100%設置を目指す**
(合計40駅)

駅を中心としたまちづくりと高架下活用の推進

■ 連続立体交差事業

- ・ 竹ノ塚駅付近工事(2021年度営業線高架化完了予定)
- ・ 清水公園～梅郷駅間(2023年度完了予定)
- ・ とうきょうスカイツリー駅付近(2024年度完了予定)



竹ノ塚駅付近高架化工事



とうきょうスカイツリー駅付近高架化完了後(イメージ)

■ 駅舎の橋上化

- ・ 新河岸駅
(2017年12月供用開始)
- ・ 高柳駅
(2018年度供用開始予定)
- ・ 幸手駅
(2018年度供用開始予定)



高柳駅橋上化完成イメージ

東武グループ中期経営計画の推進



沿線における事業の深耕（駅を中心とした拠点の開発）

複合施設開発による街の活性化

■ 和光市南口駅ビルプロジェクト

2020年春のグランドオープンに向け
商業・ホテル複合駅ビル計画が進行中
（一部2019年度先行オープン）

商業：1階～3階
（物販・食物販・飲食・サービス）
ホテル：客室4階～7階



駅ビル大規模リニューアルによる 商業施設としての鮮度・街の魅力向上



■ 新越谷ヴァリエ

レストランフロアリニューアル
2017年12月～順次オープン

改装前（2015年度）比
売上約28%増
（月坪）



■ 草加ヴァリエ

（北館：ファッションストリート）
2018年10月オープン予定
※今後南館のリニューアルも推進

駅ナカショッポ°「EQUIA(イクィア)」のシリーズ化 進捗状況と展望

■ EQUIA北千住 グランドオープン

2017年12月14日、東武沿線最大のEQUIAが誕生
全41店舗の一大商業集積
今後も駅スペースを有効活用して継続進化（改装・増床）

改装前（2016年度）比
売上約10%増
（月坪）

EQUIA



「EQUIA北千住」

■ 立ち上げ期から発展期へ

2017年度 公式ホームページ開設
東武練馬・池袋等にオープン（計9施設）
2020年度 計20施設誕生へ

- ・沿線初出店など、トレンド・お客様のニーズにあわせたテナント誘致を積極的に促進
- ・共同販促・積極的な情報発信・施設運営の効率化等運営・営業面の拡充を図る

東武グループ中期経営計画の推進



沿線外への進出

■ 仙台国際ホテル

- ・ 2017年2月～客室全室リニューアル実施
- ・ レストラン2店舗リニューアル（「ミシュランガイド宮城2017特別版」掲載）

■ 蔵王ロープウェイ

- ・ トリップアドバイザー
「2017年エクセレンス認証」認定
- ・ 「樹氷ライトアップ」が日本夜景遺産®に認定



樹氷ライトアップ

■ 東北方面への広域観光ルートPR

- ・ 浅草～日光～会津をPRする
訪日プロモーション事業への参画



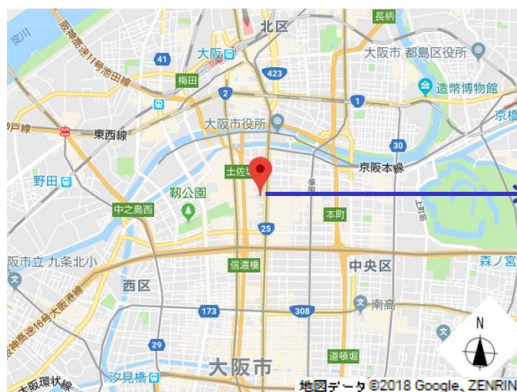
浅草～日光～会津広域プロモーション

■ 大阪市中央区 新規ホテル計画

- ・ 国内外ビジネス・レジャー需要を取り込む
ホテル計画を推進
- ・ 関西屈指のビジネス街であり、大阪駅・梅田駅
から至近という立地を最大限活かす

所在地： 大阪市中央区平野町四丁目

敷地面積： 1, 249. 17㎡



大阪市中央区 所在地

新たな成長に向け、沿線外においても収益力拡大の機会を追求

東武グループ中期経営計画の推進



インバウンドへの取り組み強化（戦略的な情報受発信）

訪日比率↑-ター国(アジア市場)への情報発信強化 (実需の刈り取り)

■ バンコク・上海・高雄 東武グループ単独商談会実施



高雄東武グループ商談会

■ 中国人インフルエンサー招聘



中国人インフルエンサー

■ 中国ツアーコンテスト実施

欧米豪市場への情報発信強化

■ イギリス・スペイン・ドイツ旅行博出展



イギリス旅行博



スペイン旅行博

■ 北関東アワードグランプリ ダブル受賞

- ・ 欧米向け観光PR動画
- ・ 日光金谷ホテルホームページ



欧州向け観光PR動画

■ 日光ブランドブック

（日光の歴史・文化など、より深い情報訴求）

■ tokyo weekender（在日欧米富裕層向け雑誌）

■ ラグビーワールドカップに向けた取り組み

（フランス・イギリス・オーストラリア等へのPR強化）

ターゲットを明確にした戦略的な情報受発信
グループ一体となりインバウンド誘客を推進

東武グループ中期経営計画の推進



インバウンドへの取り組み強化（受入環境の整備）

2017年度～ 主な取り組み

■多言語対応への取り組み

- ・多言語対応券売機の導入（8言語）
23駅52台を導入（～2018年3月）
- ・緊急時の多言語駅構内放送（9駅）
事故や災害等の発生時、4言語で放送
- ・東武バス日光 車内多言語対応液晶表示器導入



多言語対応券売機

■インバウンド向け企画乗車券の充実

- ・「Greater Tokyo Pass」の発売（4月1日～）

主要ホテル インバウンド比率推移

	2016	2017
銀座	68.8	70.2
錦糸町	26.7	35.7
成田	68.9	66.4

東武百貨店 免税売上推移

対前年 約77%増

■東武百貨店池袋本店 受入体制強化

- ・中国向け決済機能の充実
（アリペイ・ウィーチャットペイ全館導入）
- ・2階化粧品売り場リニューアルオープン
免税カウンターの移設拡大

■東京ソラマチ 受入体制強化

- ・一括免税カウンター導入による免税対応店舗増

■ムスリム受入環境の整備

- ・祈祷室の整備（東武日光駅・東武ワールドスクウェア）
- ・金谷ホテル ムスリム向けメニュー提供
- ・ムスリム向けマップの作成
- ・インフルエンサーによる情報発信強化



東武日光駅祈祷室

東武グループインバウンド営業収益

2016年度
実績
約80億円



2017年度
実績
約105億円

訪日外国人が訪れたいくなる東武沿線へ

東武グループ中期経営計画の推進



ホテル事業の展開

今後開業予定のホテル一覧	開業時期	客室数
(仮称)和光市南口駅ビル東武ホテル	2020年春	158室
(仮称) 東武ホテル川越駅西口駅前	2020年春～夏	168室
(仮称) 浅草東武ホテル	2020年夏	275室
ACホテル・バイ・マリオット東京銀座	2020年夏	296室
ザ・リッツ・カールトン日光	2020年夏	94室

既存ホテルの収益力向上

■ 成田東武ホテルエアポート

レストラン
「オアシス」
リニューアル
(2017年4月)



■ 渋谷東武ホテル

会員制自習室
「勉強カフェ」
オープン
(2017年6月)



宿泊主体型ホテルの展開

東武の宿泊主体型ホテル

- ・ 交通利便性で優位
- ・ 客室面積のゆとり、高い商品性



(仮称)和光市南口駅ビル東武ホテル



(仮称)東武ホテル川越駅西口駅前

■ (仮称)和光市南口駅ビル東武ホテル計画

東武東上線 和光市駅直結
構造：エントランス1階、ロビー・ラウンジ4階、
客室4階～7階

■ (仮称)東武ホテル川越駅西口駅前計画

東武東上線 川越駅 徒歩3分
構造：ロビー7階、客室8階～11階

■ (仮称)浅草東武ホテル計画

東武スカイツリーライン 浅草駅 徒歩1分
構造：ロビー1階・レストラン3階、客室4階～14階

主要ホテル 稼働率推移

	2015	2016	2017
銀座	93.9	92.1	95.5
錦糸町	86.5	84.7	85.1
成田	79.8	76.5	77.0

東武グループホテル事業 営業収益

2016年度
営業収益
約170億円



2017年度
営業収益
約185億円

拠点駅への新規ホテル計画を推進するとともに、既存ホテル収益の最大化を図る

東武グループ中期経営計画の推進



ICT・AI等新しい技術の活用に向けた取組み

NTTドコモ「5Gトライアルサイト」への実験協力

- NTTドコモが2020年に商用化を目指す第5世代移动通信システム（5G）の実証実験「5Gトライアルサイト」へ参画
新たなサービス創出に向け、ビジネスパートナーと協力

- ・東京スカイツリータウンにてオープニングイベント実施（2017年5月）



- ・「docomo 5G Trial Site」の開催（2017年12月）
東京スカイツリー～浅草EKIMISE間で、5G電波のロングレンジ伝送成功



- ・総務省5G総合実証試験（GI・GII）への協力
東武日光線（新栃木～新鹿沼間）、東京スカイツリータウンにおいて実証実験を実施（2018年2～3月）



ドローンを活用した鉄道施設点検の検討

- NTTドコモ保有の携帯電話ネットワークを利用するドローン（セルラードローン）技術を活用した鉄道施設点検実証実験を実施
- ・実施期間 2018年2月27日、28日
- ・実施場所 利根川橋梁（東武日光線 栗橋～新古河間）
鬼怒川温泉付近法面
（東武鬼怒川線 鬼怒川温泉～鬼怒川公園間）



東武トップツアーズ 他業種との業務提携

- エイベックス・トラベル・クリエイティヴ(株)、ニールセン スポーツ ジャパン(株)、(株)ネイキッドとそれぞれ業務提携
- 協業により、新規事業を推進するとともに、独自のツーリズム戦略を構築



グループ外の最先端技術・ノウハウを取り入れ、時代を先取りする新たな事業を検討

東武グループ中期経営計画の推進



投資計画の進捗

2013-2016
設備投資総額
2,370億円
(信託受益権取得は除く)

2017-2020
設備投資総額
3,200億円(計画)

2017年度 約300億円(通期)

主な成長戦略投資

- ・ 大阪中央区土地取得
- ・ 東武タワースカイツリー株式取得
- ・ インバウンド向けツアーの企画等
を手掛ける旅行会社との資本提携

成長戦略投資
1,070億円

成長投資
452億円

+2.4倍

維持更新
安全対策投資
1,918億円

+1.1倍

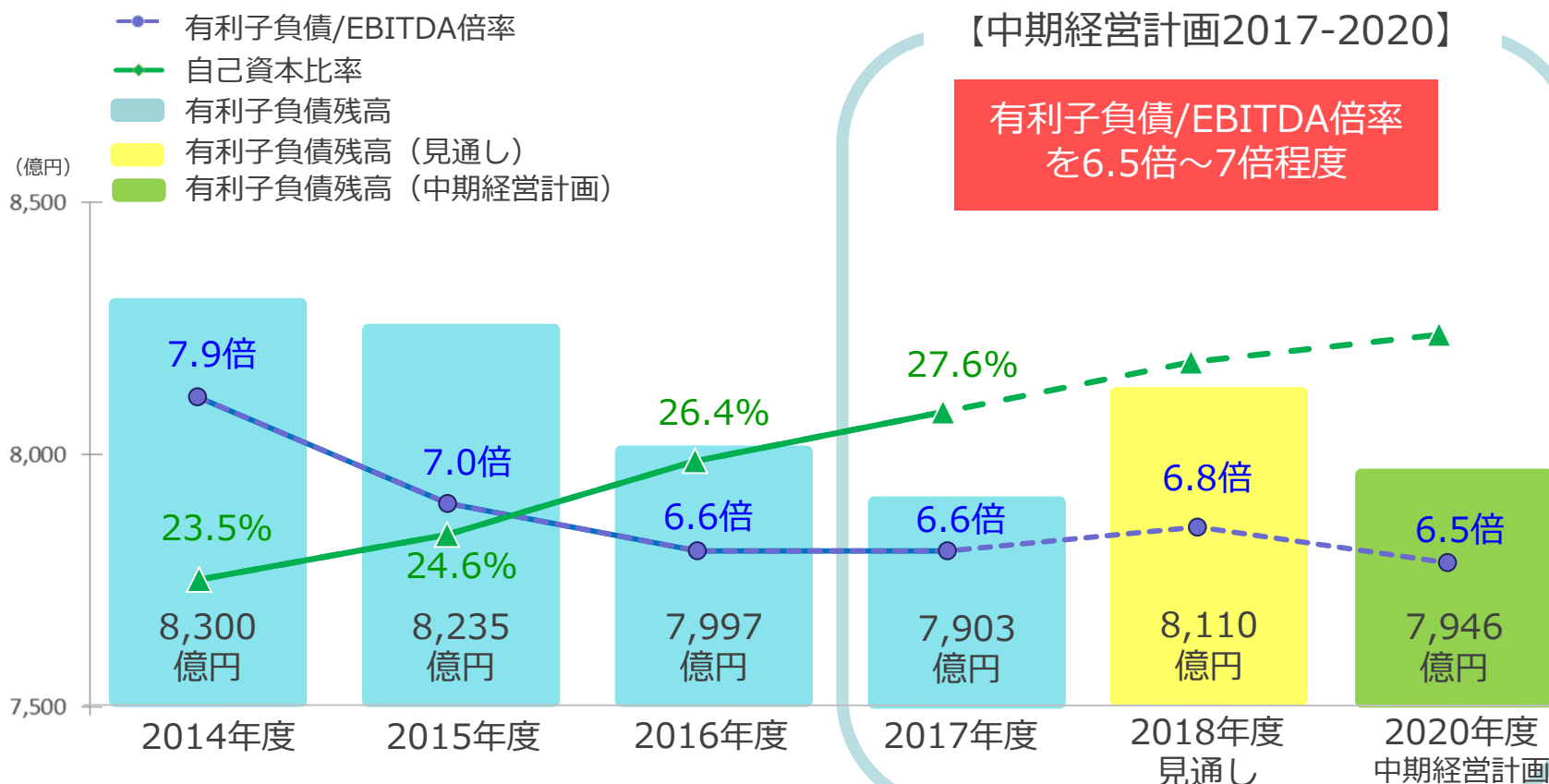
維持更新
安全対策投資
2,130億円

東武グループ中期経営計画の推進



財務健全性の堅持

「成長投資」「株主還元の一層の充実」を図りつつ、財務健全性を堅持



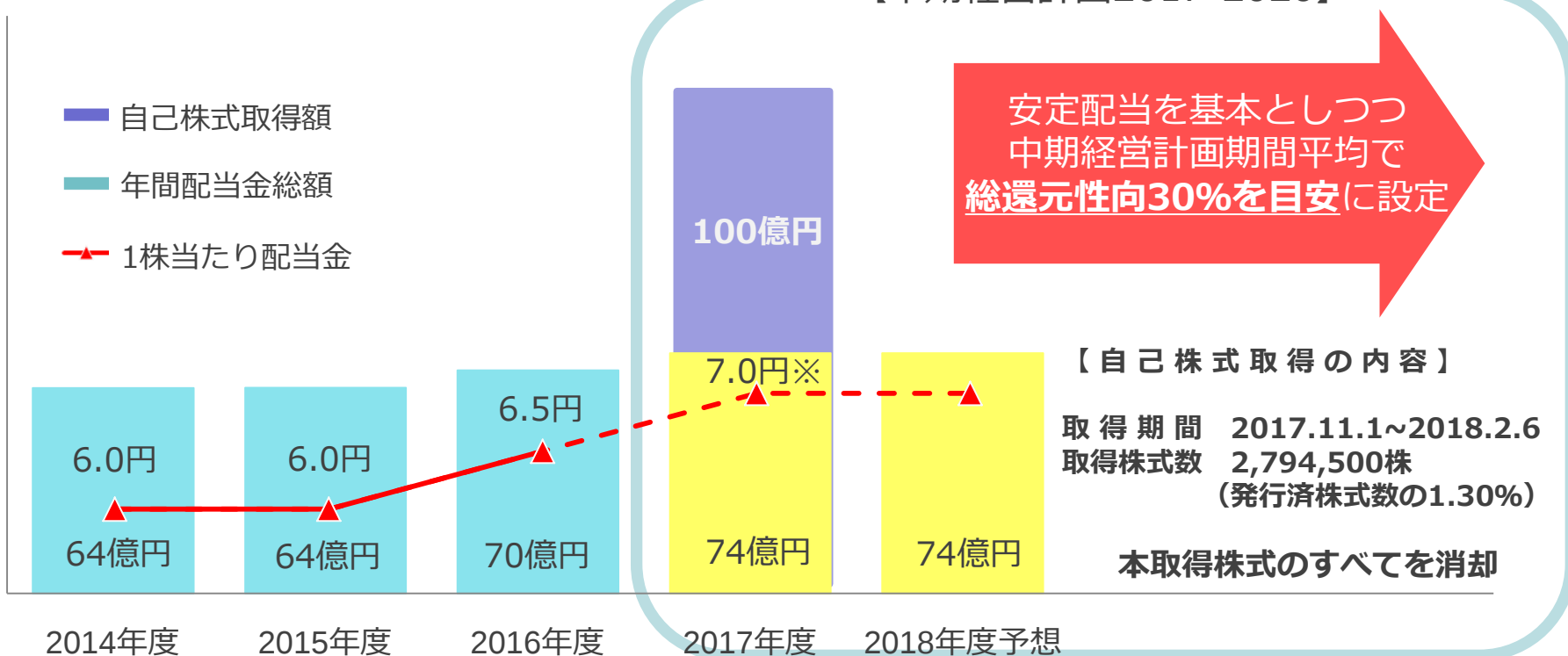
東武グループ中期経営計画の推進



株主還元の一層の充実

自己株式の取得および消却を実施
2017年度 総還元性向（見込）は約48%

【中期経営計画2017-2020】



※株式併合前ベース。2018年6月22日の定時株主総会において、剰余金処分に係る議案が承認可決された場合

連結経営指標

目標経営指標	2020年度	参考指標	2020年度
営業利益（億円）	675	EBITDA（億円）	約1,200
親会社株主に帰属する 当期純利益（億円）	386	有利子負債/EBITDA倍率（倍）	6.5～7.0
		ROE（%）	7.5%程度

	2016年度 実績	2017年度 計画(A)	2017年度 実績(B)	差 引 (B)-(A)	2018年度 業績予想	2020年度 計画
営業収益（億円）	5,689	5,707	5,695	▲12	5,883	5,900
営業利益（億円）	683	613	666	53	653	675
経常利益（億円）	621	554	623	69	605	607
親会社株主に帰属する 当期純利益（億円）	361	371	360	▲11	375	386
減価償却費（億円）	528	537	525	▲12	537	551
EBITDA（億円）	1,211	1,151	1,191	40	1,190	1,227
有利子負債（億円）	7,997	8,038	7,903	▲135	8,110	7,946
有利子負債／EBITDA倍率（倍）	6.6	7.0	6.6	▲0.4	6.8	6.5
ROE（%）	8.9	—	8.3	—	—	—
設備投資（億円）	540	772	739	▲33	867	674

当該資料に関する注意事項

この配布資料に記載されている利益等の計画値については、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向についての見通し等、国内および諸外国の経済状況その他業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報を基にした予想を前提としています。

従って、実際の業績は経営環境等の変化に伴い、この配布資料に記載されている見込値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。